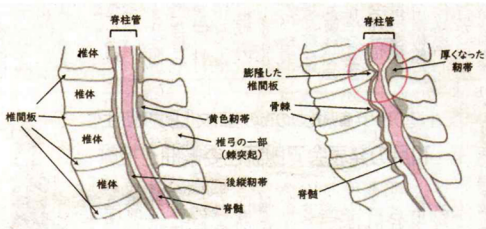


脊椎と脊髄の断面 (正常と脊柱管狭窄症)



オムロンヘルスケア・ホームページ：腰部脊柱管狭窄症とは何か？ 原因と症状/腰の痛み/から許可を得て引用 (一部改変)

なり、休憩すると消える状態です。前回は、血管が原因とされている末梢(まっしよ)動脈疾患については後述韧带、後方にて紹介しました。今回は、脊柱管狭窄症が原因で、体の役割にあっている間欠性跛行になら代表的な病気である腰部脊柱管狭窄症(せきつうかんせうさう)について紹介いたします。脊柱管とは椎骨椎間板、関節、黄間孔と呼ばれる穴があり、脊髄が通っています。椎管が狭くなると、脊髄が圧迫され、神経が通る穴が狭くなるため、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。また、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。

3層の膜(髄膜)に包まれており、その間を髄液が満たされています。髄液の働きは、衝撃を吸収し、神経を保護することです。椎管狭窄症になると、髄液の循環が悪くなり、神経が圧迫され、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。また、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。

間欠性跛行は、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。また、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。

⑩ もう一つの「間欠性跛行」

人生100年時代の健康管理
桐生大学 桐生大学短期大学部副学長 山科 章



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年から現職。総合内科専門医、日本循環器病予防学会理事。

間欠性跛行とは、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。また、歩くと足がしびれる、痛み、脱力感などが起こります。これは、椎管狭窄症の代表的な症状です。

保健・福祉

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。